

電波行政の動き

2004年ITU世界電気通信標準化総会 (WTSA-04) の結果
(次世代ネットワーク (NGN) の標準化の本格的推進に合意)

国際電気通信連合 (ITU) の電気通信標準化部門の総会である2004年世界電気通信標準化総会 (WTSA-04) が、10月5日 (火) から10月14日 (木) まで、ブラジル連邦共和国フロリアノポリス市において開催されました。

WTSA (World Telecommunication Standardization Assembly) は、電気通信標準化部門 (ITU-T) における標準化活動の方向性を決める重要な会議であり、4年に1度開催されます。今回の総会では、次研究会期 (2005~2008年) に、次世代ネットワーク (NGN) の標準化を本格的に推進することなど今後4年間の標準化課題や標準化体制の承認、具体的な標準化活動を行う研究委員会 (SG) の議長・副議長の任命等が行われました。

本会合における主な審議結果は以下のとおりです。

1 開催期間

平成16年 (2004年) 10月5日 (火) から10月14日 (木) までの10日間

2 開催場所

ブラジル連邦共和国 (フロリアノポリス)

3 出席者

日本からは総務省鬼頭官房技術総括審議官をはじめ41名出席 (総務省6名、民間35名) 全体では、75ヶ国及び6地域機関などから約480名出席

4 主な結果

(1) 次世代ネットワークの標準化体制の確立

現在の電話網に代わる次世代のオールIP型ネットワークである次世代ネットワーク (NGN: Next Generation Network) の標準化については、次会期の最重要課題として推進することに合意しました。そのための体制については、主導権確保も絡み、アジア諸国及び米国等と欧州諸国が対立しましたが、我が国の主導によりNGNの標準化を担当する新たな

研究委員会（SG）を設置し、関連SGと連携して強力で標準化活動を推進することで以下のとおり合意しました。

これにより、ユビキタスネット社会を実現するための基盤となるNGNの標準化体制が確立されたので、我が国としては今後の研究委員会活動に積極的に参加していくこととします。

このため、関係する研究開発プロジェクトの成果をNGNの標準化活動にインプットするとともに、日中韓等による協力を推進し、ITU-Tにおける標準化活動をリードしていく予定です。

(ア) NGNの標準化を取り扱う新たな研究委員会（SG:Study Group）の設置（NGN-SG（SG13））

(イ) NGNの標準化は、通信方式の標準化を行うSG11や移動網の標準化を行うSG19等のITU-Tの多くのSGが総合的に取り組むことが必要であるため、NGN-SGはITU-T全体のNGNの標準化活動の総合調整と標準化のスケジュール管理を実施

(ウ) このような体制強化によりNGNの標準化に関する産業界のニーズに迅速かつ効果的に対応、2年後に更なる体制の見直し等

(2) ホームネットワーク、セキュリティに関する取組みの強化

ホームネットワーク（情報家電）、セキュリティに関する標準化について、これまで以上に標準化活動を強力で推進すべきとの観点から、より詳細かつ具体的な標準化課題の設定や関連SGとの連携強化が合意されました。

特に、ホームネットワークの分野については、情報家電のネットワークとの接続の観点から、伝送方式、品質保証、ゲートウェイ制御機能等、相互接続の実現に向けて必要な技術についての標準化活動が本格的に開始されることとなり、我が国の家電メーカーから初めて副議長が選出されました。

これらの分野についてはこれまで我が国がITUでの標準化活動をリードしてきており、総務省としては、民間企業等と協力して、引き続き本分野での標準化活動を積極的に推進していく予定です。

(3) 標準化作業の戦略的調整の推進

NGN、ホームネットワーク、セキュリティ等の標準化作業は今後ITU-Tの多くのSGが協力して取り組む必要があるために、共通の目標設定やスケジュール管理等のSG間の戦略的な調整が一層重要になってきています。このため、我が国が中心となりAPT（アジア・太平洋電気通信共同体）加盟諸国による共同提案として提出していたSG間の戦略的な調整の強化を求める決議が全会一致で採択されました。

(4) スпам（迷惑メール）対策等のインターネット分野に関する取組みの強化

現在、電子メールのトラヒックの相当な割合を占め、インターネット利用にとって重大な問題となっているスパム問題についてITUとしての取組みを強化するため、以下の決議が採択されました。

(ア) スпамに関して国際的に協力して取り組むための具体的な活動案の策定、また、各メンバー国による取組みの強化

(イ) 関連する標準化機関（IETF等）と連携しつつ、スパム対策に資する技術勧告を早急に策定

また、世界情報社会サミット（WSIS）に向けた国連の準備作業を加速化するため、インターネットに係る電気通信ネットワークの技術的側面について検討を行うグループの設置等、インターネットに関する諸課題の早期解決に向けて、ITUとして技術的な側面の検討を推進することが決議されました。

(5) 次会期のSG議長及び副議長の選出

今後4年間の各SGにおける標準化活動をけん引する役職者として、我が国からは、以下の議長2名（今会期は1名）、副議長8名（今会期は6名）の全ての候補者が任命されました。これにより、米国の9名とともにITU-Tの活動をリードしていく体制が確立されました。

SG	活動内容	役職	氏名（所属）	
SG3	料金と会計原則	副議長	津川 清一(KDDI)	新任
SG4	ネットワーク管理	副議長	藤井 伸朗(NTT)	再任
SG9	広帯域ケーブルネットワーク	副議長	松本 修一(KDDI)	再任
SG11	信号要求条件とプロトコル	議長	平松 幸男(NTT)	再任
SG13	次世代ネットワーク	副議長	森田 直孝(NTT)	新任
SG15	光ファイバ等の伝達網	議長	前田 洋一 (NTT)	新任
SG16	端末、アプリケーション	副議長	内藤 悠史(三菱電機)	新任
SG17	セキュリティ、言語	副議長	渡辺 裕(KDDI)	新任
SG19	移動通信ネットワーク	副議長	田村 基(ドコモ)	新任
TSAG	ITU-Tの戦略、体制	副議長	岡村 治男(SCAT)	新任

なお、詳細については、http://www.soumu.go.jp/s-news/2004/041015_4.htmlを参照して下さい。

仏携帯電話事業者団体、仮想移動体通信事業者を迎える
【Le FIG-ECO,2004/09/25-26】

仏携帯電話事業者は仮想移動体通信事業者の受入れに消極的な態度から、最近受入れの方向に転換したが、そのような方向転換を追認する形で、仏携帯電話事業者オレンジ、SFR、ブイグ・テレコムからなる仏携帯電話事業者団体Afomは、仮想移動体通信事業者の独デビテルとBreizhモビル（英携帯端末販売チェーンのフォンハウス傘下）の加盟を受け入れることを決定した。但し、Afomでは、デビテルとフォンハウスの両社から加盟申請があったわけではないが、申請があった場合には受け入れるとしている。

地上デジタル放送：データ圧縮技術問題
【Les Echos,2004/09/22】

仏では、地上デジタル放送で使用されるデータ圧縮技術問題に関する報告書が数週間後に発表される予定だが、仏エレクトロニック・ビジネス・グループ（エレクトロニクス業界団体）は9月21日、主要関係者を集めた会合を開催した。発表される報告書では、最新技術であるMPEG-4を使用すべきであり、そのためには地上デジタル放送開始延期もやむなしという仏民放TF1の主張と、現行技術を使用することにより、当初の予定通り2005年3月に放送を開始すべきというフランス・テレビジョン（仏国営テレビ）やNRJ（仏民放ラジオ）の主張の間で、選択が難航していると見られる。一方、仏カナル・プリュス（ペイテレビ）では、同社の調査によると、地上デジタル放送によるペイテレビの加入者は25万人程度に留まると見られ、現在の850万人という加入者数と比較するとごく僅かであることから、地上デジタル放送は無料テレビにとってしか意味がないとして、現行のMPEG-2規格で放送を開始すべきとしている。但し、同局では、MPEG-4は、ハイビジョンのため、CATV・衛星放送、あるいはADSLテレビで使用可能として、両規格の併用の可能性を指摘している。ラファラン仏首相は、報告書の発表を受けて、10月前半に裁定を下すことになると見られるが、「既定の日程を乱すような解決策を取ることは問題外であり、地上デジタル放送開始日程に変更はないだろう」と既に述べている。

編集後記

先週末、日本を襲った超大型の台風23号「アジア名：トカゲ」で、日本に上陸した台風は10個目となり、史上最多を更新したそうです。日本に上陸する台風は年平均3個程度ですので、今年は異常な台風シーズンになりそうです。今後も台風には目が離せませんね。

さて、台風といえば、一昔は富士山山頂の観測所の情報が大きな役割を果たしていましたが、今年の夏で無人になったそうで、気象庁出身の作家の鮮烈な描写を思い出したのは小生だけではないと思います。しかし、先週は台風のお陰ではないですが、江ノ島からは無冠雪の富士山がクッキリと見ることができですが、やっと週末「富士山に初冠雪」というニュースが流れていました。今年は10日以上遅れたそうで、これも異常気象のためですかね。

ところで、初冠雪と初雪の違いはご存知でしたか、この違いは雪が降って、山頂に雪が積もっているのが、観測所から見てわかるかわからないか、ということが基準らしく、積もったことが確認できないと初冠雪と認定されないようです。人の判断にかかっているとのことですから、どこの観測所からみるのでしょうか、それともメカ的な基準となるのでしょうか。ちなみに、初雪はその年の最高気温日の後で、降った最初の雪だそうです。

しかしながら、我々中高年は改めて初冠雪と聞くと、木枯らし¹号のたよりや熱燗の美味しい季節を思いめぐらせますが、いよいよ山も冬の幕開けでスキーのシーズンが始まると、喜ぶ諸兄もARIB内にいるのも確かなようです。

(編集子：SUM)

[ページの先頭に戻る ▲](#)